



# かけはし

宇部市立楠中学校だより 第1号

令和7年(2025年)4月11日(金)

<http://www.ube-ygc.ed.jp/ksj/>



## 学校だよりの名称について ~思いや願い~

「楠から吹く風」という名称で作成されていた学校だより、その名称を令和7年度から「かけはし」に変更したいと思います。この名称には、保護者の皆様や地域の皆様へ、小学校でしっかり生き方を学んできた子どもから、中学校では自分の生き方を伝えていく、自立した「すてきな大人」へ成長していく様子を届ける「かけはし」になればという思いや願いを込めています。

学校だより「かけはし」を楽しみに待っていただける方が少しでも増えるよう、子どもたちの成長を届けていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひします。

## 中学生のうちに自立の準備を ~すてきな大人へ~

令和7年度楠中学校学校教育目標

地域を愛し、人を大切にする子どもの育成  
—すてきな大人へ—

楠中学校への入学や進級を迎え、楠中生の心の中には、多少の不安はあるものの、ワクワク・ドキドキと夢や希望、期待が大きな心の音を立てているのでないでしょうか。長いと思われる義務教育9年間も中学校3年間で終了します。3年生の中には「あと1年」と時の過ぎるスピードの速さを感じている人も多いいと思ひます。

そこで、楠中学校ではこれからの予測困難といわれる時代を力強く生き抜いていく「すてきな大人」に楠中生を成長させるために「身に付けてほしい4つの力」を次のように表現していきます。

①「自ら学ぶ力」②「豊かな人間性」③「最後までやり抜くたくましさ」④「地域を愛する心」です。この4つのものを自分自身で意識して育ててほしいと願っています。

①「自ら学ぶ力」・・・責任のある大人は、社会や家族のため、ひたむきに仕事をします。それぞれの仕事に必要な知識や技能を身に付けるために自ら学ぶことが求められます。学校の授業や家庭学習を通して、「自ら学ぶ力」を身に付けてください。

②「豊かな人間性」・・・「温かい心」「人を大切にする心」「目配り・気配り・思いやりの精神」などをさします。楠中生は「学び合い・支え合い・高め合うチームファミリー楠」の一員です。「仲間と協力する協調性」を養い、「豊かな人間性」を育ててください。

③「最後までやり抜くたくましさ」・・・勉強や部活動、学校行事や生徒会活動、何事も最後まであきらめずやり抜き、「体と心のたくましさ」を身に付けてください。

④「地域を愛する心」・・・「これがわたしのふるさとだ」「This is KUSUNOKI」「これが楠中学校だ」「これが楠のまちだ」というものを探っていき、楠のまちづくりに、君たちが新しい風を吹き込むのです。

「自ら学ぶ力」「豊かな人間性」「決めたことを最後までやり抜くたくましさ」「地域を愛する心」はこれからの時代を「生きる力・生き抜く力」につながります。

楠中学校ではそれらを総じて、これから「楠中魂(くすちゅうだましい)」と呼んでいきます。是非、そのことを胸に刻み、楠中学校の生徒であることに自覚と誇りをもって、これからの学校生活を送ってください。

【令和7年度楠中学校第23回入学式校長式辞から】

## 校長のひとりごと ~東京ディズニーランド発「おもてなしの心」~

私の大好きな場所に東京ディズニーランドがあります。その東京ディズニーランドが大切にしているものに『3つの「お」』があるのを知っていますか。『3つの「お」』とは『おもてなし』の「お」、『おみやげ』の「お」、そして『おもいで』の「お」なのだそうです。

私の尊敬している先輩校長先生から聞いた話ですが、今回は『おもてなし』の「お」に関わる「約束のお子様ランチ」の話を紹介したいと思います。

ある日、カップルが東京ディズニーランド内にあるレストランへ行きました。キャスト(従業員)に導かれてカップル席に案内されました。「ご注文はお決まりですか。」とキャストの問いに、「お子様ランチをお願いします。」とカップル。するとキャストは「お客様申し訳ございませんが、お子様ランチは9歳までとなっています。しかも、カップル席ではなくファミリー席での注文となっています。」と注文できない旨を伝えると、カップルはがっかりと肩を落とし、うつむいてしまったのです。

何か変だと感じたキャストは「お子様ランチはどなたがお召し上がりになるのですか。」と尋ねると、女性の方が「私たちの子どもが先日亡くなったのです。亡くなった子どもとの約束で、病気が治ったら、またディズニーランドで食事をしようね…。今日は子どもの供養のためにもと思い、ここに来たのです。ダメかと思ったけど、注文したのです。」と。その話を聞いたキャストは、2人をカップル席からファミリー席に移動してもらい、亡くなった子どもの分をあわせて、お子様ランチ3人分注文したのです。そして、「3人目の分につきましては、店からのサービスとさせていただきます。」と言ったのです。

後日、この出来事の様子やキャストの対応、そして心からの感謝の気持ちを込めた手紙がカップル(夫婦)から社長へ届けられたのです。

東京ディズニーランドには「本当にお客様のためであれば、そのきまりを超えてもよい」というきまりがあるそうです。この「約束のお子様ランチ」の話は、「おもてなし」のあり方を学べるすてきな話だと思っています。

ビジネスの原点は、「人を喜ばせること」にあると言われています。商品なら、それを持ったり使ったりすることで、幸せな気持ちになります。また、サービスならお客から「ありがとう」という言葉が出てくるものです。そのような「喜び」をもたらす商品やサービスに私たちはお金を支払い、またその価値を認めているのだと思います。

東京ディズニーランドのリピート率が高いのは、キャスト一人ひとりに「おもてなしの心」が浸透しており、お客の「喜び」や「満足度」が高いからなのでしょう。

「子どもたちは、毎日学校にやってくるすてきなリピーター」「保護者や地域の方々は学校に来ていただく大切なお客様」そう考えると「生徒たちに喜びをもたらす学校づくり」「保護者や地域の方々がリピーターとして学校にやってくる学校づくり」とは何か、この1年間、自問自答を続けていきます。

楠中学校が東京ディズニーランドのように多くの人から愛される場所になるよう、教職員とともに努力していきます。応援、よろしく願います。楠中生一緒にがんばりましょう。